

1996年9月10日〜16日 新宿シアタートップス

キャスト

ナオミ……………伊勢志摩
シマントガワ……………阿部サダヲ
カイツカ……………顔田顕彦
トガシ……………皆川猿時
コジマ……………猫背椿
ミネタ……………宮崎吐夢
ハジメ……………宮藤官九郎
モギ……………武沢物語
クニハラ……………正名僕蔵

スタッフ

作・演出……………宮藤官九郎
照明……………佐藤啓
音響……………半田充(MMS)
舞台監督……………海老澤榮
衣裳……………田中亜紀
宣伝美術……………吉澤正美
映像……………藤田秀幸
写真撮影……………滝本淳助
振付……………八反田リコ
イラスト……………篠崎真紀
大道具製作……………O-COM
演出助手……………小林達也
照明オペレーター……………千葉哉子
音響助手……………篠原奈央子
制作助手……………河端ナツキ
制作……………長坂まき子

あとがき

この作品からウーマンリブっていう名前にしたんですけど、別に意味はなかったんです。ちょうどこの頃、AV監督の井口昇(昇)さんの現場に、助監督みたいな形で遊びに行ったりしてたんです。その時に見たAVの撮影現場のどうでもイイ感じがすごく面白くて。僕らがAV見るのって、一生懸命コンソソ隠れて借りてきて、すごく大変なことじゃないですか(笑)。それなのに、こんなダラダラ作ってるんだって思ったら面白くて。あと、NGが発覚した時の井口さんの女の子の口説き方がすごく面白くて、あゝ監督さんはこんな大変な思いをして作ってるのに、女の子はなんかふらふらと来てるんだなって思って、その雰囲気なんか芝居にできないかなあと思ってました。

「それと、僕は今までミステリーとかがってまったく興味がなくて、やる気もなかったんですけど、何でか、一回やってみようかなっていう気持ちになったんです。その頃に、『ユー・ジュアル・サスペクツ』っていう映画が面白いて言われて見に行ったんですけど、見た人はみんな謎がわかるんですけど、僕だけ二回見たのに全然わかんないんですよ。誰が犯人かっていう気持ちにすらなれない。ホント複雑なんですけど、犯人がわかんないやダメなの？って思っちゃって。ビデオを借りて見てもまだわかんなくって(笑)。そのぐらいどうでもいいっていうか、一生懸命見れないんですよ。そんな人がミステリーみたいなのをやったらめっちゃくちゃになって面白いかああって思ったんです。僕は芝居やる時に要素が少ないと不安になるんで、すごくいっぱい入れる悪い癖があるんで、ナオミの夢にはAVとミステリーしか入れないって思ってたんですけど、できたら結構めちゃくちゃになってましたね。あと、トランスセクシャルっていうのも興味があったんで、トランスセクシャルの本を読んで、あー面白いなあ、何かうまいことできないかなあとも思ってたんですけど、それらの要素を入れて、イイ感じで台本書き出したんです。最初は、ミステリーみたいな雰囲気にして、みんなヒマだから面白がってるっていうのにしよーと思っただけなんですけど、僕も実際にミステリーにはまっちゃって、わかんなくなっちゃって(笑)。半分くらい書いた時に精神的に崩壊したんですよ。家の近くの公園の噴水で頭冷やしたんです(笑)。どうやってやんの、コレ？みたいな感じになっちゃって、抜け出せなくなっちゃったんです。あー書けないかもしれないって思いましたね。だから三幕ぐらいからは、自分に決着をつけるみたいな流れになってますね。こんなのわかんないよ、一回見ただけじゃってっていうのが結構多いですね。見た人はあんまりにも情報が多すぎて、一回どうでもいいやってわかんなくなると、突然ダンスが入ったりとか、そういうのが新鮮だったみたいなんですけど、それは狙ってない部分なんですわね。

あとね、顔田(顕彦)くんが主役なんですけど、それが大変でした。顔田くんと伊勢(志摩)さんのシーンがすごく多かったんですけど、未だに「あの時大変でしたねっ」って伊勢さんに言ったら「いや、ホントに、つい昨日のコトのように」って言ってました(笑)。なんかね、顔田くんが伊勢さんの腕をつかむ時に痣がでちゃって。ホントに力入れるらしいんですよ(笑)。僕もその頃は根気があったから、二人の稽古は別でちゃんと見てやってたなあ。でも僕は顔田くんはすごい好きです。なんか、あのダメな感じが。あとは、阿部(サダヲ)くんが大人計画の本公演だと話を引く張る方にまわるけど、ウーマンリブとかきかす方の役になるんで、そこが結構いいなあと思うんですけど。僕の作品の場合、無責任な感じでしたほうが面白いていう気がして。そういう意味では、敢えて顔田くんとかが中心になってる話にしたりします。あと正名(僕蔵)くんがずーっと出すっぱりだったんですけど、すごく良かったですね。頼れる感じがしました。正名くんが説明役だったんですけど、説明役と言いつつ結構そうでもないみたいになっていくんです。なんかそういうのがやりたかったんですよ。ちょうど「古畑任三郎」がテレビでやってた頃で、あれをみんなやりたがるんですけど、できないみたいなお話にしたかった。結果的には僕もできなかったんですけど(笑)。宮崎(吐夢)くんも面白かったなあ。最初の10分くらいはずっと後ろ姿で、振り返ると真っ黒に日焼けしてるっていう役なんですけど、その為に日焼けしてもらいましたから。なんか僕はこっぴどく乾いた感じのお話が好きなんですわね。